

青梅市文化財ニュース

第427号

令和5年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

アオバズク *Ninox japonica*

鳥類には、日中によく活動する昼行性の種類と、夜間によく活動する夜行性の種類がみられます。夜行性の種類としてよく知られているのはフクロウ類で、昔から「みみずく(木兎)」とも呼ばれます。夜行性のため姿をみることは稀で、鳴き声によってその存在が知られることが多いようです。

青梅市ではこれまで6種類のフクロウ類=フクロウ目フクロウ科の鳥類が確認されていますが(影山, 1982)、その中でも有名なのがコノハズク *Otus sunia* ではないでしょうか。コノハズクはその鳴き声から「仏法僧(ぶつぼうそう)」とも呼ばれますが、御岳山では「仏法僧」という仏教に関わる名前ではなく、神社の山らしく「御祈祷鳥(ごきとうどり)」とも呼ばれていたそうです(須崎2009)。御岳山ではかつて「仏法僧と探鳥の集い」が開かれるほどコノハズクの生息地として有名でしたが、残念ながら2000年代になるとコノハズクはほとんど聞かれなくなっていました(奥多摩支部目録作成チーム, 2014)。

コノハズク以外のフクロウ類で、今日も青梅市内で比較的鳴き声が聞こえるのはフクロウ *Strix uralensis* とアオバズク *Ninox japonica* の2種類です。このうちアオバズクは全長約30cm、翼を広げた幅が70cm前後の大きさで、頭部から背中、翼の上面、尾は黒褐色で、腹は白くて黒褐色の太い点がつながった縞があります。日本全国で見られますが、沖縄を除いて夏鳥で、繁殖のために東南アジアから渡ってきます。アオバズクは青葉の頃に渡来することが名前の由来になっています。青梅市でも4月末から5月中旬になると、「ホッホウ ホッホウ」とか「コッホー コッホー」といった二声ずつ繰り返す鳴き声が聞かれるようになります。大型昆虫類を好んで食べ、街灯に集まったガ、甲虫などを捕ります。



月を背にするアオバズク(山口孝氏撮影)

アオバズクは自分で巣をつくらず、大きな樹木にできた樹洞に営巣することから、大きな樹木が生育するまとまった樹林に生息しています。2007年から2008年に青梅市内のアオバズクの営巣地を調べた研究（山口、2009）では、河畔林（河川沿いに連なる樹林地）で6か所、社寺林（神社・寺院に付随する樹林地）で5か所の営巣地が確認されました。河畔林は河岸段丘の崖線に発達し、防災や景観保全のため開発を免れ、ケヤキやシラカシ等の大木が比較的多く残されています。社寺林もその宗教的な意味合いから古くから樹木が大切に維持されており、スギやスタジイの大木が多く見られる場所です。こうした場所にはアオバズクが巣として利用可能な樹洞ができる大木が今も残されているのでしょ。また、アオバズクは同じつがいが数年間同じ巣を利用し、つがいからつがいへと巣を引き継いでいくとされています（大庭、1997）。過去の記録を紐解くと（例えば 東京都公害局、1974）、現在も繁殖が確認されている地区の中には大正時代からアオバズクの繁殖が記録されている地区もあります。必ずしも同じ営巣木を利用しているとは限りませんが、もしかしたら大正時代以前から現在まで引き継がれている営巣地なのかもしれません。

こうして引き継がれる営巣地もある一方で、繁殖に必要な大きな木の樹洞がなくなったことや、食物である大型昆虫類が少なくなったため、東京都全体ではアオバズクの生息地は減少傾向にあります。そのため、東京都では絶滅のおそれがある種類「絶滅危惧II類」に指定されています（東京都環境局自然環境部、2023）。

<参考文献>

- 影山豊、1982、青梅市の野鳥、青梅市の自然II、p107-140、青梅市郷土博物館。
- 御手洗望、2012、東京都内でのカラスのクルミ割り行動、ユリカモメ（677）：15、日本野鳥の会東京。
- 奥多摩支部目録作成チーム、2014、多摩の鳥 鳥類目録2000-2012、295pp、日本野鳥の会奥多摩支部。
- 大庭照代、1997、アオバズク、日本動物大百科 4 鳥類II、p. 39, 40, 43、平凡社。
- 須崎直洋、2009、神苑の森、青梅市文化財ニュース（260）、青梅市郷土博物館。
- 東京都環境局自然環境部、2023、東京都レッドデータブック2023 -東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版-、879pp、東京都環境局自然環境部。
- 東京都公害局、1974、アオバズクー東京におけるアオバズクの生息地の衰退ー、自然環境保全に関する基礎調査報告書〔III-B〕：51-74、東京都公害局自然環境保護部。
- 山口孝、2009、青梅市におけるアオバズク *Ninox scutulata* の生息及び繁殖状況、青梅自然誌研究グループ会報（4）1-5、青梅自然誌研究グループ。

（文責 御手洗望）